

◆エム ナマエさんがつかんだ大きな夢～ニューヨークでの奇跡◆

「ニューヨークでストロベリーフィールズを訪れたボクは、ジョン・レノン記念碑に供えられたたくさんの花束の隣に、そっと個展の招待状を置いた。」

1980年、ジョン・レノンの死。それは世界中に大きな衝撃を与えました。エム ナマエさんもそのときから、ジョン・レノンの仕事を百万分の一でもいいから引き継ぎたい、「イマジジン」に現れるような世界を実現したいと強く願うようになったのです。

その後、失明という絶望を乗り越え、イラストレーターとして復帰したエム ナマエさんは、1998年、ニューヨークで個展を開くことになりました。

その個展がある人物の目に留まったのです。それは、ジョン・レノンに次ぐ社外アーティストを求めてオノ・ヨーコと交渉中だった、全米最大手の子供服メーカー、カーターズ社のエージェントの人物でした。

「ジョン・レノン記念碑を訪れた翌日から開かれた個展にその子供服メーカーの人が足を運んでくれたのは、ほんの偶然だった。彼は、あ、ジョン・レノンの次はこいつだって、その場で決めてくれたんです。奇跡としか思えない。

願いとか祈りって、普通はそんなばかなことが起こるはずないって思う。でも、信じたボクのほうが正解だった。」

「失明して最初に作った版画が、ジョン・レノンのポートレートだった。いつかこれをオノ・ヨーコに渡したいと思っていた。ニューヨークに、サムソナイトに入れて持っていったとき、周りはみんなばかにした。渡せるわけないじゃんって。でも帰ってくるときには、確かに渡せたんだから。

だから、人間、夢は叶う」